

# 旭川医大 病院ニュース

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
廣川博之



## 年頭にあたって

旭川医科大学病院長 平田 哲

明けましておめでとうございます。短い年末年始の休暇でしたが、ゆっくり過ごされましたか。本年もよろしく願いいたします。

今年の干支は「酉（とり）」です。酉の由来は、神様へ新年のご挨拶に向かった十二支の動物の内、猿と犬の喧嘩を仲裁する為に、猿と犬に挟まれた10番目の干支になったそうです。激しく変化する世界の中で、今年は酉役の日本が世界から求められる立場となるのでしょうか。良識を発揮した対応が期待されます。

本院におきましては、皆様の経営努力により、最も厳しい状態は改善しています。本学と同様に他大学においても厳しい状況は同じで、私達がいち早くその状況を経験し克服したのかもしれませんが。まだいろいろな課題がありますが、皆さんとやってきた工夫と努力をまた一年継続していただきたいと思っております。

昨年4月の診療報酬の改定に対し、多くの点で協力をいただきました。看護師の7：1看護を維持するために「重症度、医療・看護必要度」の基準を満たす患者割合が25%に引き上げられました。それまでの15%からかなり数値が上がりましたが、A項目では「無菌治療室での治療」「救急搬送後の入院」、新たに「手術後の患者の医学的状況を評価する」C項目が追加されるなど変更点もできました。秋以降28-29%を継続することができております。ありがとうございました。また昨年の病院の数値的目標は稼働率88%、医療費率37%、新患率5%超をお願いしました。概ね目標に近づけた数値を維持していますが、今年もよろしく願

いいたします。

2つ目には「実践的能力を備えた質の高い医療人の養成」をお願いしました。なかなか評価できる数値を出せる目標ではありませんが、各職種ともに教育についてもあらためて考えていただければと思います。医師の新専門医制度に関しては、昨年は地域医療の崩壊の危険も危惧した多くの意見も聞かれ、本年からのスタートとなります。本学でもその対応のため、専任職（佐藤伸之教授）を配置し、卒後教育体制の強化をはかりました。我々は大学自体を充実させ、地域の基幹病院としてその実力を見せ、中心的な病院になっていかなければなりません。若い先生方をきちんと教育して社会に出すことが使命となっております。メディカルスタッフ、看護師の皆さんもワークライフバランスを考えつつ、学内の講演会や学外の学会、研究会などの参加をお願いします。安心安全な医療、感染対策や接遇など大変ためになる講演会も予定されています。自分磨きの環境は充分あります。

地域医療についてですが、今年はより地域連携を図ります。これからは地域の一般病院の体力が落ちてくると予想されております。全診療科を標榜できている本院は、この地域の拠点機能として北海道の人々が安心して暮らせるような診療体制をより充実させなければなりません。そのための必要な人員は学長と相談し確保してまいります。

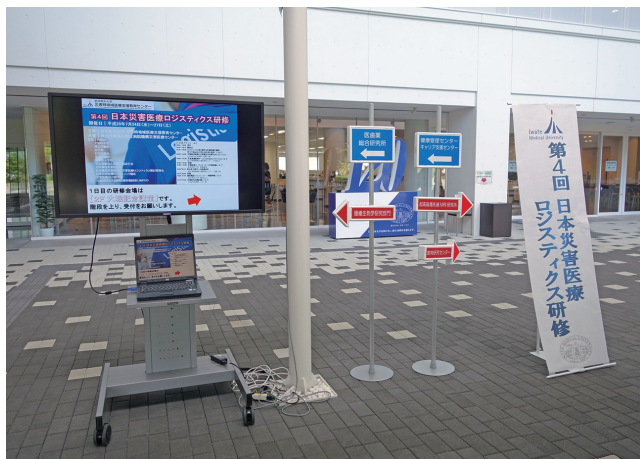
職員の皆さん、今年一年、よろしく願いいたします。

平成28年 8月24日～27日開催

## 日本災害医療ロジスティクス研修

於：岩手医科大学及び岩手県内各地

去る8月24日～27日に岩手医科大学及び岩手県内各地において行われた日本災害医療ロジスティクス研修についてご報告いたします。



まず、災害医療における「ロジスティクス」とは、直訳すると「兵站」であり、チームの移動、補給、医事に関する調整を行う者のことを指します。

今回4回目の開催となった本研修は

「大規模災害時、被災都道府県に支援に入る医療チームとして円滑な情報のやりとりや、十分な生活環境の確保といったロジスティクス能力の向上」となっており、ロジスティクス能力向上に特化した、日本最大規模の研修です。

また、この研修は東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県内において関心が高く、盛岡タイムスとでは初日の研修が、岩手日報では2日目の実習の様子が掲載されるとともに、NHK岩手放送局及びテレビ岩手（日本テレビ系列）では実働訓練の様子が地域ニュースとして報道されました。

8月24日は座学にて、災害医療におけるロジスティクスの基礎について学び、8月25日午前中に衛星電話等の機材の使用した実習がありました。

8月25日午後には活動戦略として、翌8月26日から27日にかけて行われる実働訓練の説明と連絡調整方法について調整を行った後、8月26日から27日にかけて実働訓練を行いました。

実働訓練は8月27日朝まで行わ



れ、その後撤収・移動時間を挟んで27日午後より報告会・パネルディスカッションを行い、15時半過ぎをもって全日程が終了しました。

今回の研修を通じて、発災前の準備が重要で、日頃から衛星電話等の操作方法に慣れる必要があり、被災地においては業務調整員がどのように動く必要があるかを改めて認識することができました。今回の研修内容を、今後の訓練や被災現場で生かせるようにしたいと思います。



## ストレスチェック制度スタートに伴う講演会の開催について

労働安全衛生法の改正に伴い、50人以上の事業場では、年1回のストレスチェックが義務付けられました。

昨年、本学におきましても、職員自身のストレスへの気付き、その対処の支援、職場環境の改善を通じて、メンタルヘルス不調となることを未然に防止する一次予防を目的に、「旭川医科大学ストレスチェック制度実施要項」が制定され、昨年11月には各職員にストレスチェック調査票が配布されました。

また、昨年10月19日（水）には、ストレスチェックの重要性を深く理解していただくため、全職員を対象に、学長補佐（メンタルヘルス担当）の千葉教授による講演会「時には、こころの鏡をみましましょう」が実施されました。

講演会では、約170名の出席者を前に、千葉教授から、①メンタルヘルス不調者が年々増えていること、②精神疾患が、がん、循環器疾患とともに三大健康被害要因になっていること、などのストレスチェック制度導入の社会的背景や、この制度の概要について説明されました。また、講演の結びとして、「ストレスチェックを、自分自身のこころをみるツールとして活用してほしい」との提言がなされました。続いて、事務局か

ら本学での具体的実施方法について説明があった後、実施制度や面談方法等について活発な質疑応答が行われ、定刻となりました。

今後、毎年1回、ストレスチェックが実施されます。職員の皆様全員が、引き続き受検していただけますようよろしくお願い申し上げます。



千葉教授による講演



講演会会場（看護学科棟大講義室）

## 「セカンドキャリアのための交流会」を開催して

看護職キャリア支援 職場適応支援担当 浅利 尚子

少子超高齢社会において、看護師不足は深刻な社会問題となっており、セカンドキャリアを活かした看護師の活躍が期待されています。そこで看護部では、看護職が豊かな経験を活かし、自分のライフスタイルに合った仕事を継続し、いきいきと輝き続けることができるよう、今年度「セカンドキャリア」について考えることを目的とした、生涯学習講座を開催しました。今回は3名の講師に各々の立場からご講演頂きました。北海道看護協会上川南支部支部長の新野さゆり様から、セカンドキャリアが期待されている背景や人材としてどう活用するか、また定年退職後の活躍の場は、

病院や在宅だけではなく、地域のコミュニティへの参加も多様な役割として期待されていると話されていました。旭川市訪問看護ステーショ



ン連絡協議会会長の白瀬幸絵様から、具体的な事例をもとに、訪問看護ステーションで行われている看護の実際や魅力について話され、「無いサービスは創る！」という言葉がとても力強く印象的でした。最後に、セカンドキャリアを当院の患者サポート・サービス担当看護師として活躍している小澤和永様から、仕事と定年退職後のセカンドライフの考え方や体験談・趣味についての話から、参加者にとって「人生前向きに自分らしく進んでみよう」と思える講演となりました。現在、いわゆる潜在看護師と呼ばれる人たちは約71万人に上ります。なかでも、定年退職を契機に専門職としての活躍の場をなくすのはもったいないと思います。参加者は、自分のセカンドキャリアをどのように活かしていけるのか、何か参考にしたいと興味を持って参加しており、「自分に何ができるのか」、「病院以外の仕事にも興味を持てた」、「就労していた時の看護への思いを蘇らせた」などの意見がありました。専門職として多様な活躍の場があるので、多くの看護職が、それぞれ自分のセカンドキャリアを描けるような企画を、今後も検討していきたいと思えます。

## 看護実践報告会を開催して

看護部認定看護師委員会 がん放射線看護認定看護師 野中 雅人

平成28年9月7日「認定看護師が実践する卓越したベッドサイドケア」と題し、「実践事例から看護の視点を共有し質の高い看護実践を目指す」ことを目的に、認定看護師による看護実践報告会を開催しました。

吉田美幸 乳がん看護認定看護師より「乳がん治療を拒否する患者への意思決定支援～揺れる気持ちと事実は何か?」、伊藤尋美 救急看護認定看護師より「初療室での家族看護～救命病棟24時 あなたは家族とどう向き合うか?～」、上北真理 集中治療ケア認定看護師より「早期リハビリテーションの必要性を再認識したケース」をテーマに3名の認定看護師から実践報告がありました。がん看護や救急看護などの専門的な知識や技術などと共に、心理的な支援についての報告があり、様々な場面で認定看護師が活躍していることが報告されました。

研修には、当院の看護職員57名の参加があり、各報告の後にディスカッションも行われました。参加者からは、「認定看護師が行う看護実践の方法を聞くことができ参考になった」「看護実践の根拠が説明されていて、わかりやすかった」「具体的なベッドサイドケアやアセスメントがあり実践につながると思う」といった



意見があり、認定看護師が行っている看護実践の視点や活動が評価されていました。また「救急の初療室での事例は衝撃的だった。」「3つの事例はとても勉強になった」「認定の立場で実際に経験した看護について聞く機会はとても貴重だと思った」「認定看護師が真剣に患者さんと向き合う姿勢がみえるようでとても刺激を受けた」とあるように、認定看護師が実践する看護ケアが、参加者へ伝わり、看護の視点を共有するとともに、認定看護師の活動についての理解が深まったと感じました。「このような事例検討会の機会がもっとあればよい」といった意見があり、今後も認定看護師による看護実践が、看護職員のみならず多職種の方にも、身近に感じられるような報告会を検討していきたいと考えます。

## クリニクラウンがやってきた！！

11月21日(月)、旭川医科大学病院の小児科病棟に「クリニクラウン」がやってきました！

今回は、「大ちゃん」と「きゃー」がみんなに会いに来てくれました。

楽しみに待っていた入院中の子どもたちが、医師や看護師、病棟保育士と一緒に、音楽を演奏したり、皿まわしをしたりして、楽しい時間を過ごしました。



病気の治療のため、さまざまな制限の中で入院生活を送り、クリニクラウンに会えるのを楽しみに待っていた子どもたちとご家族に、たくさんの笑顔をお届けできました。

### 「クリニクラウン」とは？

● 病院を意味する「クリニック」と道化師をさす「クラウン」を合わせた造語です。クリニクラウンは、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わり（コミュニケーション）を通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育む道化師のこです。

（「クリニクラウン活動報告書」より抜粋）

12月19日(月)の午後、病棟の子どもたちに、サンタクロースに扮した病院長、金田看護部副部長から、クリスマスプレゼントが配られました。

最初は緊張気味だった子どもたちも、サンタと会話をするうちに笑顔になり、病室はあたたかく明るい雰囲気になりました。



**薬剤部 副作用情報(67) 術中虹彩緊張低下症候群 (Intraoperative Floppy Iris Syndrome : IFIS)**

白内障手術中に起こる合併症の一つとして、術中虹彩緊張低下症候群 (Intraoperative Floppy Iris Syndrome : IFIS) がある。

IFISとは、白内障手術中に「眼灌流液の水流による虹彩のうねり」、「水晶体の乳化吸引処理方向への虹彩脱出または誤吸引」、「術前に散瞳薬(フェニレフリンなど)が投与されているにも関わらず生じる術中の進行性の縮瞳」の3徴候を生じるものである。これにより手術の進行が妨げられるだけでなく、虹彩の損傷や虹彩離断などの術後合併症を引き起こす可能性がある。

発生頻度は白内障手術患者のうち、米国では約2%、わが国では約1%と報告されているが、 $\alpha_{1A}$ 受容体選択性遮断薬を内服している患者では40~60%と高頻度で発症すると報告されている。また、 $\alpha_1$ 遮断薬の中でも $\alpha_{1A}$ 受容体選択性が低い、ドキサゾシン等を使用中の患者でもIFISの発症率が高くなることが示されている。

$\alpha_{1A}$ 受容体選択性遮断薬は、タムスロシン、ナフトピジル、シロドシンなど主に前立腺肥大症の排尿障害改善薬がある。これらの服用によりIFISが発症しやす

くなる理由は、 $\alpha_{1A}$ 受容体が前立腺だけでなく、虹彩散大筋にも分布しているためと考えられる。

IFISが懸念される手術時の対処法としては、①眼粘弾剤であるヒアルロン酸ナトリウム製剤を十分に前房に注入し、脆弱な虹彩を安定化させる、②虹彩リトラクターを使用する、③吸引圧と吸引流量を低設定にし、慎重な核処理、皮質吸引を行う、④水流が虹彩に直接当たらないように配慮して虹彩の「うねり」を少なくする、⑤適応外使用であるが散瞳薬フェニレフリンの前房内注入、などがある。

なお、 $\alpha_{1A}$ 受容体選択性遮断薬の内服を中止後1年以上経過してもIFISが観察されたという報告があるため、手術前に休薬しても手術への影響が無くなるとは限らない。

IFISは、薬剤の使用目的・白内障手術という観点からも高齢者に多いことが考えられるため、白内障手術を控えている患者には、術前に $\alpha_{1A}$ 受容体選択性遮断薬の内服歴を確実に聴取し、IFISの発症を予測することが重要である。

(薬品情報室 春名 柚佳)

**臨床検査・輸血部発 検査項目の基準範囲について**

いつも適正な検査依頼にご協力いただきまして大変感謝申し上げます。

日常の診断・治療を実施する上で臨床検査値は、客観的な医学的情報として活用されています。その結果解釈や判断の基準となるひとつの指標として基準範囲があります。基準範囲とは、一定の条件を満たす健常者から得られた95%のデータ分布幅を意味しますが、その設定や利用において施設ごとに様々な方法が採用されているのが現状です。昨今、質の高い効率的な医療提供体制のために各医療機関との連携が進められ、患者の検査情報の共有化への期待が高まっています。これを実現するためには、測定方法の標準化とともに基準範囲の共用化がとても重要です。

このような情勢のなか JCCLS (日本臨床検査標準協議会) という臨床検査の標準化に関連した団体より3種類の健常者の大規模調査データを基に生化学・血液検査の40項目について共用基準範囲案を策定し、各種学術団体、業界団体に広く意見を求め、それらの意見を反映させた JCCLS共用基準範囲が公開されました。(URL=http://jccls.org/techreport/05.html)

この共用基準範囲は日本医師会などが賛同し、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする団体が本基準範囲の採用を推奨しております。本年7月には北海道大学

病院で共用基準範囲が採用となり、全国の国公立大学病院をはじめとして、全国的に採用が拡大しております。今後、旭川医科大学病院においても地域連携や臨床検査室のISO15189認定を進めていくうえで、考慮し

表1. JCCLS共用基準範囲一覧

検査項目	共用基準範囲	単位	検査項目	共用基準範囲	単位
WBC	3.3-8.6	$\times 10^3/\mu\text{L}$	γGT	男 13-64 女 9-32	U/L
RBC	男 4.35-5.55 女 3.86-4.92	$\times 10^6/\mu\text{L}$	CK	男 59-248 女 41-153	U/L
Hb	男 13.7-16.8 女 11.6-14.8	g/dL	AMY	44-132	U/L
Ht	男 40.7-50.1 女 35.1-44.4	%	BUN	8.0-20.0	mg/dL
MCV	83.6-98.2	fL	CRE	男 0.65-1.07 女 0.46-0.79	mg/dL
MCH	27.5-33.2	pg	UA	男 3.7-7.8 女 2.6-5.5	mg/dL
MCHC	31.7-35.3	%	Na	138-145	mmol/L
PLT	158-348	$\times 10^3/\mu\text{L}$	K	3.6-4.8	mmol/L
TP	6.6-8.1	g/dL	Cl	101-108	mmol/L
ALB	4.1-5.1	g/dL	Ca	8.8-10.1	mg/dL
T-Bil	0.4-1.5	mg/dL	IP	2.7-4.6	mg/dL
T-CHO	142-248	mg/dL	Fe	40-188	μg/dL
HDL-C	男 38-90 女 30-117	mg/dL	PPG	73-109	mg/dL
LDL-C	65-163	mg/dL	HbA1c(NGSP)	4.9-6.0	%
TG	男 40-243 女 30-117	mg/dL	IgG	861-1747	mg/dL
CHE	男 240-486 女 201-421	U/L	IgA	93-393	mg/dL
ALP	106-322	U/L	IgM	男 33-183 女 50-269	mg/dL
AST	13-30	U/L	C3	73-138	mg/dL
ALT	男 10-42 女 7-23	U/L	C4	11-31	mg/dL
LD	124-222	U/L	CRP	0.00-0.14	mg/dL

ていかなくはならないものと考えております。

しかしながら、基準範囲採用にあたり、各検査項目ひとつひとつに臨床判断値との関係性を十分に考慮しなくては日常診療に混乱を生じる可能性も否定できません。これまでと同様に基準範囲を変更していく際には関係各診療科、部署との十分な協議が必要ですので、その際には何卒皆様のご理解ご協力をよろしくお願いたします。ご参考までに表1には、40項目のJCCLS共用基準範囲を示しております。(文責：新関)

## 永年勤続者表彰

勤労感謝の日にあわせ、平成28年度の本学永年勤続者表彰式が、11月22日（火）午前10時30分から第一会議室で行われました。

表彰式は、役員及び所属長の列席のもとに行われ、松野理事から被表彰者全員に対し表彰状の授与が行われました。

次いで、松野理事から永年にわたり本学の発展、充実に尽力されたことに対する、感謝とねぎらいの挨拶があり、これに対して被表彰者を代表して、鳥本悦宏 腫瘍センター長から、謝辞が述べられました。

なお、被表彰者は次の方々です。（敬称略五十音順）



- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 伊 東 美由紀 (外来ナース・ステーション)  | 練 合 若 菜 (救命救急ナース・ステーション)  |
| 金 誠 治 (救命救急ナース・ステーション)  | 藤 井 敏 一 (施設課)             |
| 高 橋 さやか (6階東ナース・ステーション) | 藤 尾 美登世 (保健管理センター)        |
| 田 中 誠 子 (9階東ナース・ステーション) | 本 間 美 穂 (6階東ナース・ステーション)   |
| 照 本 愛 (9階東ナース・ステーション)   | 見 上 直 樹 (医療支援課)           |
| 鳥 本 悦 宏 (腫瘍センター)        | 村 上 閑 香 (集中治療部ナース・ステーション) |
| 中 村 智 美 (6階西ナース・ステーション) | 安 田 詩 帆 (会計課)             |
| 西 村 貴 史 (施設課)           |                           |

## 平成28年度 患者数等統計

(経営企画課)

区 分	外来患者 延 数	一日平均 外 来 患 者 数	院 外 処方箋 発行率	初 診 患者数	紹介率	入院患者 延 数	一日平均 入 院 患 者 数	稼働率	前年度 稼働率	平均在院 日 数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
7月	32,099	1,605.0	95.7	1,276	86.1	16,791	541.6	90.0	89.7	12.5
8月	33,176	1,508.0	95.6	1,337	83.6	15,555	501.8	83.4	83.9	11.0
9月	31,510	1,575.5	95.7	1,184	84.5	15,525	517.5	86.0	83.5	12.7
計	96,785	1,561.0	95.6	3,797	84.7	47,871	520.3	86.4	85.7	12.0
累計	190,493	1,548.7	95.6	7,723	84.8	96,169	525.5	87.3	86.3	12.4
同規模医科大学平均	142,377	1,159.7	91.5	7,780	81.4	94,189	514.7	84.5	83.1	14.1

## 編集後記

あけましておめでとうございます。編集後記です！

私は8年ほど稚内や遠軽などの辺境警備に従事し平成23年4月に大学産婦人科に帰還しました。この6年弱で男性医師5名、女性医師5名の計10名が入局し、8名が退局。退局はしないが医局人事からはずれた病院へ退避する者数名。女性医師のべ6名が出産され、1名が妊活に入りました。遠軽厚生病院は撤退となり、前教授の開業した病院は北海道経済やメディアあさひかわの紙面を賑わせることとなりました。現在学内に1年目と2年目の研修医をたくさん見かけると思いますが、当科入局予定者は0です。最近円形脱毛症になって私も逃避したくなってきました。今後どうしたらいいかYahoo!知恵袋にでも聞いてみたいと思います。Get your fox horns up! (産婦人科学講座 市川英俊)

## 時事ニュース

- 11月9日（水）がん診療連携拠点病院研修会（士別市立病院）
- 11月12日（土）～11月13日（日）「北海道緩和ケア研修会 in旭川（旭川医科大学病院主催）」開催
- ・11月27日（日）ギター部・JAZZ研合同クリスマスコンサート
- ・12月11日（日）プラスアンサンブルクリスマスコンサート
- ・12月12日（月）～12月16日（金）職員定期健康診断
- ・12月17日（土）合唱部クリスマスコンサート
- ・12月24日（土）木管五重奏クリスマスコンサート